

生命体としての地球をガイアといいます。高速で自転と公転をするこの強大なガイアは、時間を初めとして、地上における最大の力と、最高の知性である磁気波動をメッセージとして、すべての生命に送りつづけています。

人はこの働きを、科学では“磁気”と云い、思想としては“気”と呼び、スピリチュアルには“波動”と称しています。草木は、気候を通じてメッセージを享けて芽吹き、鳥や魚は、気流に乗り、時と方角を間違えずに渡り、回遊をします。

人の内側にある時は、気持や人気じんきといい、外側にある時は、天気、外気といいます。“愛語よく廻天の力ある”と言われる如く、内と外との気は相通じ、大きくは、国の景気から、小さくは、人の病気まで、人生のすべてをコントロールしています。ですから人の気持ちで天候が左右され、社会心理の善し悪しが、景気や天候異変に影響を与えます。

気學を習得し、みずからの運命をコントロールできれば、健康を保ち、事業を発展させ、必ずや人生を成功に導くでしょう。これこそが、気持の方向を \square する、処方箋本来の意味です。

この學問は、中国4千年の聖賢の叡智として集大成された東洋哲学の精髓エッセンスであり、漢字の起原である甲骨文字にも大な影響を与えました。後に、易経、老荘思想、干支學として発展し、陰陽五行説にインド哲學が加わり、玄學仏教として伝承され、日本に於いて気の學問、道の教えとして集大成されました。

歴史上、崇高な生き方をした老子、孔子、朱子の思想から政治上では、孫子や諸葛孔明へと伝承され、聖徳太子が、日本での最初期の学び舎、法隆學問寺で教學として採用してから人々の精神世界を形成し、時代の文明文化の基盤を築きました。

中国では『帝王學』と称し、日本では『天地の學』として、公家では陰陽師が継承し、武家では足利家から織田、武田、徳川に至るまで足利學校を中心に教えられ、一般では、道の徳として學習します。兵法（東西南北の利）として用いるとき、北に負けると書き敗北といい、南を指すと書き、指南役という言葉ができています。

一方で、平安の時代から江戸期に至る都市建設理論ともなっています。歴代の都を守る処方箋として、方位をいかに処するかが、国家にとって大きなテーマでした。

古代都市国家は、地理を考慮して、天文と方位を重要視します。日本の文化で古くから使用されている紫宸殿や朱雀大通りの名称は、この學問の専門用語であり、御所の東北鬼門には、比叡山を置き、反対の裏鬼門には、一宮を安置しています。江戸城も東北には、東の叡山として、東叡山寛永寺を置き、西南は守護神が護ります。一般の家屋の玄関という名称も、深遠な真理を意味する、この気學の別称、玄學からきています。

ガイアから送られてくるメッセージの磁気を読み取る気の學問は、長い歴史の中で多くの優秀な人材を育成し、国家的大事業を成功へ導き、現代でもなお、順天堂や資生堂など一流企業の社名とその企業精神に受け継がれ、すべての生きとし生けるものを繁栄し、社会を発展向上させる一翼を担っています。